

ふるさとを

# 訪ねて

特集  
豊後大野市  
議会交通

— 大野町夏足 (原地区) —



▲明治43年に500キロワットの発電量を備えていた水力発電所跡地

## 水と畑と

## 石文化の里

本庁を出発して15分。沈墮の滝を左に見ながら高台へ進むと、そこには一面にたばこ畑が広がり、祖母・傾・久住の山々や神角寺、三重町の佩楯山などの素晴らしい景色が見渡せる大野町夏足の原区(22戸・約70人)があります。作物はたばこ、ピーマン、甘藷、大分のシヤモなどです。



▲広大なたばこ畑の先には、女性の神様を奉った春日宮があった

ここには、安政3年に建立された鳥居や女性の神様を奉った春日宮牧岡社があり、地区の歴史を物語っています。隣には高さ5メートルほどの立派な貯水槽があり、今は水の心配はいりませんが、昔は30分かけて水を担いで運んだ苦勞を語ってくれました。沈墮の滝の側には、発電所の跡が残っています。明治37年に着工し、西洋技術を取り入れた石造建築物で多額の費用をかけ完成したものです。電力は家庭はもとより、別府・大分間の電車を走らせたそうです。この建物は、雪舟ゆかりの沈墮の滝とともに、大きな文化遺産です。



さいとう ただし  
斉藤 正さん

原地区の歴史を熱く語ってくれました



とうえ とみかつ  
戸上 富勝さん